

# AFPYの手法を生かした学級づくり・授業づくり

～子どもたちの自己意識の向上と個が生きるあたたかい仲間づくり、集団作りをめざして～  
道徳・学級活動・総合的な学習

## 1 AFPYとは？

AFPYの手法は、課題を解決することがねらいではなく、その過程を重視しており、カウンセリングの理論を背景としている。活動をしているときの子どもたちの動き、言葉のやりとり、仲間とのかかわり方などを指導者はできるだけ見逃さないように把握し、それを活動中や活動後の振り返りにいかに生かすかということが、重要なポイントとなる。この「子どもたちの言動に対して敏感になり、それをいかに受け止め、子どもたちに返していくか」ということは、特にこの教育手法による課題解決活動に限って必要とされるものではなく、教育全般にわたって必要なことであり、子どもたちの日常生活でのいろいろなトラブルや不適切だと思われるような活動は、多くのことを学べる「課題」となるものであろう。したがって、この手法を取り入れた活動は、特別に課題となるものを提示して行うことだけをいうのではなく、子どもたちの学校生活の中で起こる様々な「課題」に対して行われるものだと受け止めている。そのような考えのもとに、目の前の子どもたちの人間関係や集団の中でのかかわり方などの状況を見ながら、「今、この子どもたちにとって、必要なことは何か」「もっと、こんな集団に高まってほしい」という観点から活動のねらいを明らかにし、それに合った課題を提示して課題解決活動を行っている。このことは、次のような点において有効だと考える。

- ゲーム的要素の強い活動過程において、子どもたちは楽しみながらも本音が出ることも多く、人間関係が表面化する。⇒自分たちに人間関係の実態を見つめることができる。
- 課題を解決するための方法を学ぶことができる。⇒話し合いの仕方、挑戦すること
- 「もっとこんな力を育てたい！」という教師の思いから、意図的に活動を仕掛けることができる。

## 2 1年間の取り組み

このAFPYの教育手法を、学校での様々な教育活動に積極的に取り入れた。1学期は、主にゲーム的要素の強い活動を取り入れ、課題解決の方法を学ぶ機会とした。そして、2学期、3学期と自分たちが少しずつ身につけた力を生かして実践していけるものとして、総合的な学習「南河内の米作り」に取り組んだ。総合的な学習に取り組む際、その課題、課題解決の方法など、すべて子どもたちの話し合いによって決定し、活動をすすめていった。教師は主に、子どもたちの様子を見ながら活動中や活動後に振り返りの場を作り、次の活動へ生かすこと、そして、子どもたちからの要求があれば可能な限り協力をするという形で関わった。

この総合的な学習「南河内の米作り」は、3月に劇の上演会を開催することを目標に、10月から取り組んだ。

### 3 子どもたちの成長

#### <1学期>

※今にもけんかになりそう。やっぱり・・・こんな言葉がたびたび聞かれました。

- 「いけんのんよ」「だめなんよ」

だれがダメだって決めたのかなあ

- 「やってもええん？」

だれが決めるの？ いいのか悪いのかわからないのかなあ

「～してもいいんですか？」

私が決めるの？

※きれいな「円」を作れない！これぞまさしく、このクラスの子どもたちの姿・・・ジグザグの円

※結果が気になる子どもたち・・・「できる・できない」「いいか・悪いか」

- 「もうこれでいい！」

次にやって失敗したらいやだから。これ以上できないかもしれないから

- 「そんなことしてもいいん？」・・・「ルールの中にそれをしてはいけないってあったっけ？」

※自分だけではなく、周りが見えてきた・・・ジグザグになっても円はもとどおり

- 「もっと前に出たら？」

- 「あっ、いつのまにか前に出過ぎとった」

※結果じゃなくて、「やってみること」に意味がある

- 挑戦しなかったことに後悔・・・「これからは、やってみる」「やらないと意味がない」

- 「挑戦してみようやあ」

- 「やってみんとわからんじゃ」

※広がってきた発想

- 「そんなことしてもええんじゃろうか？」

「先生の言ったルールにはいけないってなかったよ」

「あっ、そうか」

「じゃあやってみようやあ」

※おだやかな毎日

T:「そういえば、今ごろけんかをしなくなったね」

C:「ぼくらあ、けんかしよったっけ？」

C:「しよったいね。すぐけんかになりよったよ」

C:「そうか・・・わすれとった！」

T:「どうしてけんかをしなくなったん？」

C:「けんかするのがめんどくさくなった」

C:「けんかするのって、けっこうエネルギーがいるんよね」

C:「だいたい、けんかしようなるようなことがほとんどなくなったもん」

#### <2学期>

※なんでもやってみよう！

- 「後ろ向きじゃなくて、前向きに！」

※あきらめない

- 「もう一回やってみよう」

- 「もう一回挑戦してみよう」

- 「できるまでやろう」

※きれいな「円」

※みんなで取り組もう

### 総合的な学習「南河内の米作り」

- 南河内は、昔から米作りで有名。でも、自分たちはその米作りのことについて知らないなあ。
- 米作りのことについて調べてみよう。・・・活動計画
  - ・ 知りたいことを出し合おう
  - ・ わからないことを調べよう
    - 本で
    - 聞いて・・・おじいちゃん、おばあちゃん、おとうさん、おかあさん、JA など
  - ・ 調べたことを伝えよう
    - 2月の学習発表会で
    - 劇化しよう ・・・ 調べたことをもとに台本作り、練習、発表（3月に）
    - よりわかりやすく伝えるために。
    - いろいろな人に興味を持ってもらうために。

○自分たちの課題をもとに、個人がまず調べ、調べたことを共有し合い、それでもわからないことをさらに調べた。

○調べたことをもとに、劇の台本作り。

・「自分たちの伝えたいことは何か」を明確にし、それを常に振り返りながら。

内容を大きく5つに分け、分担してまず台本の原案を考えた。

昔のこと

ルース台風の被害

ほじょう整備、用水路作り

らくになった作業

米作りのこれから・・・問題点、願いなど

○台本作りをしていく上で、調べた内容が不十分なところは冬休みに調べよう。

※人それぞれ

- 「ぼくはちょっと朝早くくるのは無理かもしれん」  
「無理せんでもええよ。がんばれるだけがんばったらええじゃ」
- 「苦手な人?」「得意な人?」  
「ぼく、ちょっと苦手」「わたし、あんまりできんけえ、教えて!」  
「ぼく、まあまあできるよ」「ぼく、得意!だれか教えてあげるよ」  
「じゃあ、こうやって組を作ろうやあ」

※チームワークの勝利・・・自分たちで動き始めました。（5年生とのバスケットボールの試合）

- 「まずは作戦を立てようやあ」
- 「朝、早く来て練習しようやあ。」「昼休みも、練習しようやあ」
- 「見ている人は、アドバイスをしてあげるようにしよう」

<3学期>

※「固定的な人間関係」→「新鮮な友だち」との楽しさ

- 「できるだけ今まで同じ班になっていない人と同じ班になるようにしようやあ」
- 「ぼく、〇〇さんと一緒になってみたい。楽しそう。」

- ※ 3学期にしたいことは?・・・劇の上演会を成功させたい!  
4年の思い出にみんなで一緒に温泉に行きたい!

★劇の上演会…みんなでがんばって、たくさんの人に米作りのことを伝えよう。

○学習発表会

米作りについて調べたことを、全校児童・保護者・地域の方の前で発表。

○いよいよ本格的に劇の上演に向けてがんばろう

<これからしていくこと>

- 台本の見直し・・・完成
- 配役の決定
- 劇の練習
- 大道具、小道具作り・衣装・・・できるだけ本物近いものを  
実物が使えるものは実物を
- 宣伝活動  
チラシ、ポスター

◎劇・・・できるだけ事実に沿うように

- ・ 方言を調べる
- ・ 服装を調べる
- ・ 実際の昔の米作りのし方を教えてもらう。

◎宣伝活動

- ・ チラシ  
全校児童、教えていただいた地域のかたがたに配布  
郵便局、公民館、JAに置かせていただく
- ・ ポスター  
郵便局、公民館、JAに貼らせていただく  
子どもたちが地域の掲示板やよく見える壁など、お願いに行く。

○劇の上演会・・・3月18日

すべて子どもたちの手で。

100人を越える方が観にきてくださった。

おじいちゃん、おばあちゃんたち

「昔を思い出した」

「こうやって子どもたちが知ってくれてうれしい」

「自分たちが昔やっていたのとほとんど同じ。よく、知らないことをこんなに本当のよう  
にやったもんだ」

などという感想をくださった。子どもたちは、思いもよらないたくさんの方が観にきてくださ  
ったことを、たいへん喜び、大きな達成感を感じていた。

★みんなで一緒に！・・・4年の思い出に「温泉へ行こう」

C：「4年生の思い出にみんなで一緒に温泉に行きたい！」

T：「みんなの気持ちはわかるけど、私には協力することはできない」

C：「じゃあ、だめじゃあ」

T：「そんなことはないよ。みんなのお父さんやお母さんが協力してくださったらできるよ。」

C：「そんなん、むりじゃろう」

T：「何も言わないで動き出さなかったら絶対無理。でも、みんなが自分たちの気持ちをうちの人に伝えたらダメかもしれんけれど、実現するかもしれないよ。」

C：「そうか、じゃあみんな父さんや母さんに言ってみようやあ」

※学級懇談会にて～保護者の方より

○いつもすぐに「どうせぼくは・・・」といていたのに、その言葉をちっとも言わなくなりました。

後ろ向きな姿勢から、前向きな「やってみよう」に変わってきました。

○みんなで力を合わせて何かをすることのすばらしさを感じるようになってきた。

○「温泉行き」について

・前はあまり思っていなかった「みんなで一緒に」ということを思うようになったことは、とてもうれしい。その思いを大切にしたい。

・親が多忙で、なかなかよい思い出作りをしてやることができないので、子どもたちの気持ちの後押しをしてやりたい。

・子どもたち全員の総意に対して、今の段階ではまだ実現できるかどうかはわからないが、実現に向けて動いていきたい。その結果、もし実現が難しくても、子どもたちは納得するだろう。結果はどうだろうと、子どもたちの気持ちに対しては答えてやりたい。

※子どもたちの「夢」実現・・・「温泉へ行こう」決定！（3月15日～16日）

○「言ってよかった！」

○「あの時あきらめとったら、行かれなかったね。」

4 子どもたちにとっての課題

私が子どもたちの様子を見て「課題」を決める。

子どもたちが「課題」と感じて、解決しようとする。

自分たちで新しい課題を見つけ取り組み、解決していく。

子どもたちに、今、こんなことを感じてほしい、気づいてほしいなあ。そのためには、どの課題解決活動にしようかなあ。

だんだん自分たちでいろいろな課題を解決しようとする力がついてきたぞ。様子を見て、必要に応じて課題解決活動を取り入れていこう。

自分たちで、「次はこんなことをしたい」「みんなで話し合おうやあ」と動き出した。もう私から「課題解決活動」を提示することもないなあ

「ものの見方・考え方」・・・生きてはたらく力を育てたい

目をあけて、口をあけて、耳を開いて、鼻を開いて、心を開いて